

令和6年度一休さん放課後等デイサービスにおける自己評価表 集計結果

(令和7年1月実施分)

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	70	30		現在の建物は、利用定員には対応しているが、中高生の児童が増え、手狭に感じられる時がある。老朽化が進み、近々移転する予定である。
	2	職員の配置数は適切であるか	80	20		配置人数は適切であるが、現在の建物は部屋が分かれており、マンツーマンで対応する子どもが複数いる曜日もあり、職員の休み等の関係で厳しい状況の時がある。
	3	生活空間は、本人に分かりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。	30	70		現在の建物は古い為、間口の狭さや段差等、車いすでの移動が難しい場所がある。近々移転する予定である。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	70	30		毎朝ミーティングの時間を1時間程度確保し、送迎時間等の確認、当日の活動計画やタイムテーブルについての打ち合わせを行い、前日に実施した活動内容や個々の児童の支援の検証・評価・改善点についての話し合いを行っている。夏休みなどの長期休暇中は朝から子どもの対応がある為、ミーティングに十分な時間を確保するのが難しい。
	5	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	90	10		平成28年度より保護者向けアンケートを実施し、業務改善につなげている。
	6	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	100			事業所内に掲示し、保護者に紙面で配布し、ホームページ上で公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			100	第三者による外部評価は現在行っていないが、今後必要に応じて実施を検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	80	20		今年度は動画視聴の方法を積極的に用いて研修機会を増やしたが、内容としては基礎的なものが多く、もう少し掘り下げた内容の研修機会を増やしていきたい。【改善目標①】
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等でサービス計画を作成しているか	90	10		計画期間ごとにモニタリングとアセスメントを行った上で、個別支援計画書を作成している。
適切 な 支 援 の 提 供	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	40	60		アセスメントシートについては、今年度、内容の見直しを行い、5領域に対応した課題をしっかりと導き出せるものとなる様にした。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100			職員間で案を出し合いながら活動プログラムを作成している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100			平日、土曜日、長期休暇期間で内容を変化させ、個別・集団療法の活動時間を大切にできる様、工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ、細やかに設定して支援しているか	90	10		平日はリラックスと心の安定、土曜日・長期休暇期間は集団活動の中で社会性を伸ばすことを課題の中心としている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	100			個別支援計画書には個別・集団それぞれの課題を組み込んでいる。

適切な支援の提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100			毎朝ミーティングの時間を1時間程度確保し、送迎時間等の確認、当日の活動計画やタイムテーブルについての打ち合わせを行い、前日に実施した活動内容や個々の児童の支援の検証・評価・改善点についての話し合いを行っている。夏休みなどの長期休暇中は朝から子どもの対応がある為、ミーティングに十分な時間を確保するのが難しい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	80	10	10	終業時は送迎の関係もあり、振り返りや保護者からの伝達等の情報交換のみ、ごく短時間の間で行っている。翌日朝のミーティングで振り返りを行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	90	10		・複写式の記録用紙を使用し、一部を保護者へ、もう一部を事業所の記録として保管している。また、これとは別に毎朝のミーティングでの振り返り時に、子ども一人一人の様子について記録を行い、支援の検証・改善につなげている。
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	90	10		6ヶ月に一回を基本として実施している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	50	50		ガイドラインに示されている基本活動を指針として活動プログラムを作成しているが、地域支援・地域連携については具体的な活動につなげる取り組みまで至っていない。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	90	10		児童発達支援管理責任者が出席している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	80	20		学校との情報共有については、基本的には保護者を介して行っているが、学校によってはホームページや「すぐー」等で情報を確認している。子どもの様子の変化に合わせて早期の対応を要する場合などは、学校送迎の際や電話等で随時情報共有を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合、子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	60	40		医療ケアが必要な児童が利用を始める際は、事前に主治医より情報提供を頂き、協力医療機関である同法人病院の小児科医が診察し、緊急時に備えている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	70	30		同じ事業所内の児童発達支援から放課後等デイへ移行する場合は事前の情報共有ができてはいるが、新たに放課後等デイサービスからの新規利用児童については、就学前のサービス担当者会議等での保護者との情報交換が主で、保育所や幼稚園等との情報共有は十分行えていない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	60	40		学校が主催する『移行支援会議』に児童発達支援管理責任者が出席し、移行先への情報提供を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	40	60		専門機関が主体となって開催する研修会等には可能な限り職員を派遣し、研修の機会を設けている。
26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		30	70	現状として傷害のないこどもと活動する機会はつくりていない。	

	27	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか		40	60	自立支援協議会への参加は行っていない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100			保護者からの連絡ノートや活動記録の提供、送迎時の口頭での状況報告等で日々の状況について報告し、共通理解を持てる様、努めている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	10	80	20	昨年度からの継続課題として、まず全ての職員がペアレントトレーニングについての知識を研修等を通じて修得し、保護者へフィードバックしていくシステムを構築していきたい。 【改善目標①】
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	90	10		契約時に書面にて説明を行い、変更があった場合には都度、変更内容を記載した文書を配布し、随時説明を行っている。また、事業所内に重要書類を提示している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100			随時面談や電話等の方法で相談に応じている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	10	40	50	コロナ禍を是年で5年近く実施できていない為、今年度は半年に1回程度、保護者が参加しやすい形での講演会や親子教室、見学会等を実施していく。【改善目標②】
	33	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100			事業所内に苦情受付・解決責任者を選任し、苦情受付体制を整え、頂いた苦情等については迅速に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100			・月に1回広報誌を作成し、紙面での情報発信を行っている。 ・より早い情報伝達の方法としてホームページの活用についても検討していきたい。
	35	個人情報に十分注意しているか	80	20		個人情報に記載された書類は全て職員室にて厳重に保管し、個人情報に記載された文書を処分する場合は必ずシュレッダー処理を行っている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100			子どもの障害や特性に合わせ、必要に応じて絵カードや写真、50音表やホワイトボード等を活用している。保護者に対しては、文書や電話、ショートメール等、様々な方法で確実に情報を伝える事ができる様、配慮を行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		30	70	現状として地域住民との交流は実施できていないが、昨年度より年に1回、子ども達の製作発表の場として作品展を開催し、保護者や関係機関に声かけを行った。今後は地域にも声かけを拡げていく等しながら、地域の活動や行事等への児童の参加について検討していきたい。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	90	10		「身体拘束廃止及び虐待防止委員会」に加えて今年度より「感染対策委員会」「災害対策委員会」を立ち上げ、全職員がいずれかの委員会に所属し、定期的に委員会を開催し、各種マニュアルの見直し・訓練等を実施している。また、保護者には本年度、マニュアル集を配布し、周知に努めている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100			定期的に地震・火災・水害・不審者対応の避難訓練を実施している。近々移転を控えている為、新たな場所での避難経路等の確認・避難先での支援についてのシュミレーション等を実施していきたい。

非常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100			毎年市が主催する虐待防止研修会に必ず職員を派遣している。また、「身体拘束廃止および虐待防止委員会」が中心となって全職員を対象とした職場内研修を実施し、定期的に動画視聴での研修や事例検討も実施している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	40	50	10	「身体拘束廃止および虐待防止委員会」が中心となり、作成した指針に基づいて、万が一に備えている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	70	20	10	アレルギー対応が必要な場合は、事前に保護者および主治医より情報提供を頂き、必要に応じて協力医療機関である同法人病院の小児科医が診察し、アナフィラキシー等の緊急時に備えている。また、給食を提供する食養課の管理栄養士とも情報共有を行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	80	20		ヒヤリハット・事故報告書綴りを作成し、常時職員が閲覧できる様にしているが、情報共有については課題が残っている。今年度は、「身体拘束廃止および虐待防止委員会」のメンバーが中心となって過去の事例をまとめ、事例検討を行っている。

【改善目標①】

職員全体のスキルアップを目指し、個々の職員の経験年数や興味・関心に合わせて学びたい内容を選択でき、年間を通して継続的に学ぶことのできる研修スタイルを構築していく。また、ペアレントトレーニングについての知識と実践力をつけていくことができる様、事業所内での勉強会も含め、様々な研修機会を確保する。

【改善目標②】

来年度より、半年に1回を目安に保護者会を開催する。保護者が参加しやすい内容や曜日・時間帯を検討していく。

【改善目標③】

移転後の新たな場所・施設での避難ルート選定および訓練の計画・実施・検証を行い、その結果を基に各種マニュアルの見直しを進めていく。また、内容を変更したマニュアルについて全職員および保護者に周知を行っていく。更に避難先での具体的な支援方法についてシュミレーションを実施し、マニュアルに反映させる。